第２０回相模原市行財政構造改革本部会議　会議録

日時　　令和４年８月１８日（木）午前１１時１５分～正午
会場　　第３委員会室
出席者　市長、大川副市長、隠田副市長、森副市長、鈴木教育長、市長公室長、市長公室理事、総務局長、財政局長、危機管理局長、市民局長、健康福祉局長、こども・若者未来局長、環境経済局長、都市建設局長、緑区長、中央区長、南区長、教育局長、消防局長、議会局次長（代）

１　相模原市行財政構造改革プランの進捗管理について
○　事務局より、議題について資料に基づき説明。

＜主な意見等＞
○　資料５「現在までの改革による取り組みの進捗について」の（３）エ「補助費等の見直し」の（ア）「補助金の見直し」の主な取組内容において、敬老事業補助金の見直しに係る記載があるが、敬老事業全般については、プランの策定作業と並行して見直しを進めてきたところだが、敬老事業補助金は、令和２年度に見直しを進め、令和３年度から補助金の見直しを行っていることから、プランの策定前に補助金の見直しを行っているものであり、修正した方がいいのでは。また、この項目自体が「事務事業の選択と集中」の中にあるが、その見出しの割にはマイナスのイメージが強い書き方のように感じる。（健康福祉局長）
⇒敬老事業補助金については、担当部署とのやり取りの中で、令和２年度から調整を進めてきたという話は聞いていたが、実際には令和３年度から見直しが実施されていることから、令和３年度の実績になるものと認識し、記載したものである。見直し自体が令和２年度に終了したという解釈であれば、この記載を削ることは差し支えないと考えるが、改めて健康福祉局と調整したい。「事務事業の選択と集中」については、プランの項目のタイトルになってしまっており、そのタイトルを変えることはできないが、項目の中で馴染まないような取組内容があれば、調整していきたい。（財政局長）
○　資料２を見ると、歳出超過額が当初の８１６億円から６５６億円に改善したように見えるが、当初予算自体はそもそも収支を均衡にするものであり、ここに載せたところでマイナスになりようがない。即ち、このまま進んでいけば、最終的に歳出超過はゼロになるものと思われる。今後、この資料をどのように公表するのかに関わるが、今年の収支状況を見た中で、８１６億円がどうなったのと聞かれたときに、この表だけ見ると６５６億円になったように捉えられるが、それは実際には正しい数字ではないのではないか。決算の数字とかなり乖離しているということと、来年に向けて決算剰余金が一般財源として活用されるという中で、このように単純な比較をすると、６５６億円という数字が誤解を受けたまま広まってしまう懸念がある。公表する際には、この数字の取り扱いについて検討した方がいいのでは。（危機管理局長）

○　資料５について、書きぶりが少しずつ異なっており、例えば淵野辺駅南口のまちづくりにおいては進めて行くべき目標があって、こういう取組を進めてきましたという記載になっている一方、アイススケート場の方は調査を実施し、結果を公表したという記載のみとなっており、公表してどういう風に進めて行くのかということが見えてこない。書きぶりの整理を考える必要があるのでは。（危機管理局長）

⇒長期財政収支については、元々計画を作る際には、このままの状況でいくと本当にやらなければならない事業にお金が投入できなくなる、予算が組めなくなるというところがスタートラインとなっている。御意見のとおり、今回収支がゼロになるのは当たり前ではあるが、予算を組むためにプランに基づき事業を組み立てていく中で、収支をゼロに近づけていく、ゼロにしていくことが目標になっている。また、決算に基づいて翌年の予算を組んでいくということが基本になることから、このような形でお示ししている。ただ本資料は本部会議用にお示ししているものであり、公表することを想定していないが、情報公開請求等があればこの形で出していくものであると考えている。（財政局長）

⇒公共施設の見直しの部分については、あくまでも計画期間中にやるべき部分であり、第１期までに進めていくものと第２期までに進めていくものとがあり、その途中経過をお示ししているものであり、このような取組を進めてきたということを示すものと考えている。先ほどの長期財政収支についても、本来は第１期と第２期に分けているので、第２期のところで長期財政収支に入れ込む部分を計画に盛り込むということは考えられるが、例えばＡ＆Ａのように金額が大きな事業がある際には、長期財政収支の見直しが必要であると考えている。（財政局長）

○　長期財政収支については、市全体をコントロールするのであれば予算ベースでいくしかないのではないか。また、先ほど健康福祉局長からも意見のあった資料５の「事務事業の選択と集中」の部分であるが、資料を見るとカットばかりのイメージである。様々な会合の挨拶の中で、プランの話をすることもあるが、その際にはこれは単なるコストカットではなく、今喫緊の課題となっている例えば不登校児への対応では、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーを増員しているということを話している。行革というとコストカットのイメージがあるが、構造を変えていくことであり、今喫緊の課題に対応しているという見せ方があるのであれば、そうした社会情勢に対応した課題にも取り組んでいるというプラスの見せ方をした方がいいのでは。（鈴木教育長）

⇒第２期を進めていくところで、中身や文章を見直す部分があるものと認識しているので、その際にはプラスの部分も必要かと思うので、その入れ方も含めて検討していきたい。（財政局長）

○　先ほど話のあったプラスの部分は是非出して欲しい。また、敬老事業補助金の件は、慣例的に市の施策というのは取り組んだのがいつかというよりも表に出たのかがいつかで判断するものであり、資料５に載っていることは問題ないと考える。（市長公室理事）

○　資料４の経常収支比率の話の中で、かなり数字が改善しているが各都市とも同じような状況ではないかという話は事実だと思っているが、市民の感覚からすると、経常収支比率

は大きく改善しているという実態としての数字で捉えられるということは理解して欲しい。トップミーティングの場においても、今回の決算剰余金や財政調整基金の話において市民への還元を考えて欲しいと市長からメッセージが出されているので、実態としてはまだ厳しいという側面はあるものの、市民の目から見た時にはそうではない見方をされることもあり、市民にどのように還元していくかということも出していく必要があるのでは。結果的に、このような財政状況になった時に、各指定都市はアイディアを出し、このお金をどう使っていくかという競争になったり、先進的な都市はこういう時こそチャンスと捉えその財源で何か始めるということもあることから、守りではなく攻めの部分をやるべきだと考える。（市長公室理事）

○　進捗管理をやることは当然だと思っており、手法に関しても任せたいが、そもそもいつ時点のものをいつまでに行おうとしているのか。（隠田副市長）

⇒プランの中では、定期的にとしか記載がないが、プランを令和３年度当初に始めていることから、１年経過したところで本部会議の中でお示しをするものである。基本的には、第１期が終わるところで進捗状況を示した中で、第２期をスタートしていきたいと考えている。（財政局長）

○　そうすると第２期前までに進捗管理をするということで、その手法を検討しているという理解でよいか。（隠田副市長）

⇒第２期に向けて、第１期で終わらせるものも混在しているが、第１期で終わらせる予定だったものの第１期のところではここまでしか進まなかったというものはやる必要があると思っている。（財政局長）

○　進捗管理を行うのであれば、いつ時点でいつまでにこういうスパンでやるという大前提なしに議論すると、この手法で良いのか悪いのかがよく分からない。進捗管理を行うのであれば、きちんと公表ベースで進めて行くことが当然であり、公表するにはこういう形でいいかという視点で議論する必要があることから、まずはそこを示して欲しい。（隠田副市長）

○　長期財政収支は、こういう状況であることから、見直す必要はあると考えるが、どの時点でどう見直してどう公表していくかというのは真剣に議論して欲しい。先ほどの危機管理局長からの指摘は正しいと思っており、本市の財政の基盤が健全化に向けて進んでいるかというのを見る指標としては、今度は後ろ７年を見ないと、８１６億円が次の７年にはこうなりました、だから財政基盤が固まりましたという風にしないと、なかなか数字が見えてこなく勘違いされてしまわないか。いずれにしろ、細かい文言よりもそうした大きなところをしっかり固めてから議論をした方がいいのでは。（隠田副市長）

⇒長期財政収支については、第２期をスタートするところで明確に示すことが本筋だと思っているが、歳入がかなり上振れしていることから、秋ごろに示せるところは示していき、第２期のところでさらに明確に示していきたいと考えている。（財政局長）

⇒進捗管理については、プランにおいて「第１期における歳出削減策及び歳入確保策の取組実績については、適時適切に市民、議会等に公表することとします。」とされていることか

ら、第１期の分については評価を行い、公表していくということで検討している。ここでは中間報告のような形になっているが、明確な進捗管理のスケジュールについては改めて示したい。（財政局長）

○　隠田副市長の意見に全面的に賛成である。多少違う視点で付け加えると、今後７年間の数字について元々こうだったものの、令和３年度の決算などを踏まえていくと、こう変わることから、こういう事業に選択と集中の考えで切り替えができ、こうした事業ができるというものも併せて見せて行かないと、せっかくやるいい事業が場当たりのようにしか見えなくなってしまうともったいない。そういう点で、第１期、第２期で見直しのための進捗管理をするというのは一つの考えであると同時に、各年度において、その年度ごとの決算状況などを踏まえながら、見直すべき部分は見直した上で、次年度以降にどう反映し、その成果として施策展開がどうなっていくかというところも含め、構造がこういう風に変わったという形がつながっていくと思うので、そこは是非考えて欲しい。（森副市長）

○　第１期が終わった段階で、プランの内容自体を見直すという話があったが、指標については、現在、財政効果額が載っており、それを使えるか使えないか分からない部分もあるが、新たな指標を作るのであれば、それをプランの中で示すのかどうか、また、将来を見据えた新たな取組の部分を盛り込んでいくのかどうかということと、重点分野としてこういう分野があるということも示していく形になると思うが、そうした見直しをいつの時点で行うのかということは考えておいた方がいいのでは。（市長公室長）

２　その他

特になし

以　上